

事例 9

大区画ほ場で効率的な土地利用

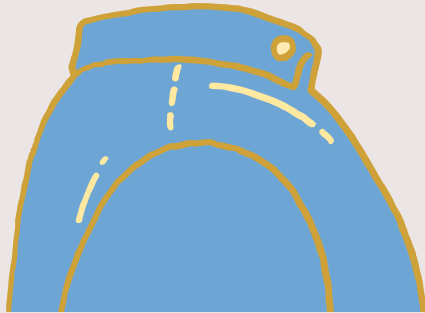
～ほ場整備事業(大区画)「南北地区」～

[五箇村]



【地区の概要】

| | | |
|-------------|--------------|---------|
| 事業年度 | 平成6年度～平成12年度 | |
| 事業費 | 1,440,940千円 | |
| 事業内容 | | |
| ほ場整備 | 区画整理 | 57.3 ha |
| | 暗渠排水 | 13.6 ha |
| | 客土 | 27.2 ha |
| 排水対策特別事業 | 排水路 | 2.1 km |
| 農業近代化施設整備事業 | | 1ヶ所 |



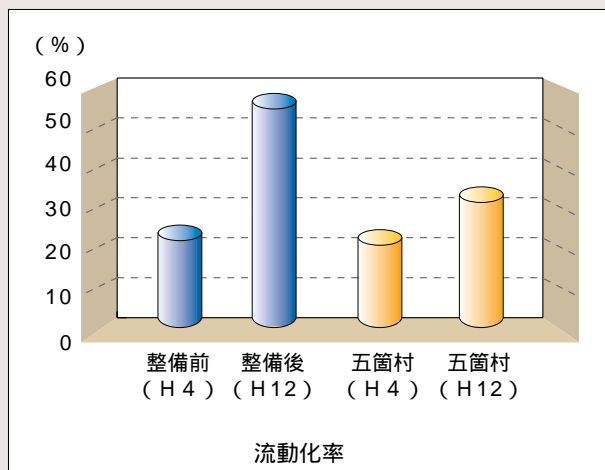
本地区は、重栖川沿いに拓けた沖積平野で標高は0～7mです。昭和27年～29年にかけて33.4haの耕地整理が実施されましたが、一区画が平均0.12ha、用排水路は土水路であり、営農に多大な労力を要していました。

このような状況から区画整理を行い、用水をパイプライン化し、また、排水対策特別事業・農業近代化施設整備事業(農産物集出荷施設用地整備)を実施し、農作業の省力化や農地の汎用化、効率的な土地利用が促進されました。



省力化支障となる電柱を山側に寄せ、ヘリコプターを導入し、直播、防除作業の試験栽培を開始。

農地の流動化



大豆の転作



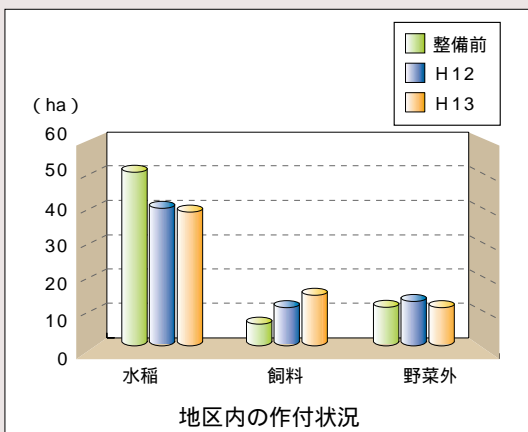
整備前



整備後

整備後：1haの区画15.6haを含め、50a以上の大区画ほ場が、30.3ha（地区内の53%）でき、効率的な営農が期待されます。

水田の汎用化



転作の団地化への取り組み

五箇村飼料生産組合（認定農業者4名と五箇村農業公社で構成）は地区内で飼料作物を栽培し、五箇村内外の畜産農家に、安全な飼料を計画的に供給しています。

作付状況

| 年度 | 作付面積 | 供給先(畜産農家) |
|-----|--------|-----------|
| H12 | 6.5ha | 3農家(30頭) |
| H13 | 10.0ha | 7農家(70頭) |